

**長寿のネズミ「ハダカデバネズミ」で再生医療に大きく貢献！
ナイスステップな研究者に三浦准教授が選定される！**

(概要説明)

「科学技術への顕著な貢献 2017(ナイスステップな研究者)」に、本学大学院生命科学研究部 老化・健康長寿学分野／大学院先導機構に 11 月 1 日付けで着任した、三浦恭子准教授が選ばれました。

この賞は、国の科学技術や学術振興に関する政策立案プロセスの一翼を担うために設置された文部科学省直轄の国立試験研究機関である、科学技術・学術政策研究所により、科学技術イノベーションのさまざまな分野で活躍し、日本に元気を与える研究者が毎年選定されるものです。三浦准教授が大学院生時代に指導を受けていた山中伸弥氏も、「再生医療を可能にする画期的“万能細胞”の作製」が評価され、2006 年に選定されています。

三浦准教授は、長寿でがんになりにくい「ハダカデバネズミ」の皮膚から iPS 細胞の作製に成功し、その iPS 細胞が腫瘍化耐性を持つこと、また、それをもたらす分子メカニズムを発見しました。この発見は、ヒト iPS 細胞の臨床応用に向けた課題の一つである腫瘍化リスクの低減や、将来的には人間にも応用できる革新的ながん化抑制方法の開発につながると期待されます。

ハダカデバネズミは、その名の通り体毛がほとんどなく、大きな前歯が特徴のアフリカ原産のげっ歯類で、地中に穴を掘り集団で生活する真社会性ほ乳類としても知られています。マウスと同等の大きさながら約 10 倍の寿命を有し、自発的な腫瘍形成がほとんど認められないため、老化やがんの研究者から注目を集めています。

熊本大学では、平成 29 年 11 月に生命科学研究部に新たに「老化・健康長寿学分野」を設置し、超高齢化社会における健康寿命の延伸や老化の解明を目指した研究を推進してまいります。三浦准教授は、同研究の中心的役割を担う研究者として期待されています。また、来年春には、学内にハダカデバネズミの飼育施設を構築し、三浦准教授の前任地の北海道大学から同施設内にデバネズミを移転する予定です。今後、本学が中心となり、我が国におけるハダカデバネズミ研究の推進を図ります。

【お問い合わせ先】

熊本大学大学院生命科学研究部（医学系）

担当：田辺 裕

電話：096-373-6852

Fax：096-373-6852

e-mail：miurak@kumamoto-u.ac.jp